

株式会社ジェイコム関東 相模原・大和局 2010年度 放送番組審議会議事録

2010年度の放送番組審議会は、2011年2月16日(水)に相模原市で開催された。

出席者 : 放送番組審議会委員(五十音順)
相澤 博 様 井上 泰司 様 榎田 達雄 様 高橋 秀典 様
武内 英雄 様 水谷 正隆 様

事業者 : 株式会社ジェイコム関東 相模原・大和局
営業局 渡部局長、業務局 浅野局長、営業局 水本
株式会社ジュピターテレコム 関東メディアセンター
制作チーム 藤原

1、開会

2、議題 :

1)局の概要について。

①首都圏(特に神奈川県エリア)におけるJ:COMの展開について。

- 2011年7月のアナログ放送終了に向けて、地デジ化を昨年より進めており、99.8%完了している。

②相模原・大和局の展開

- 都市部周辺エリアや再開発エリアの放送・通信環境をサポートとして、相模大野再開発、米軍相模原補給廠再開発エリア、津久井湖・相模湖エリア、千木良・串川周辺、愛川町の一部などの既存アナログ放送電波障害施設を弊社が譲りうけ施設をデジタル対応することで、地域のデジタル化を押し進めている。また、デジタル100%により発生する「新たな難視」対策にも協力している。
- 現在のコミチャン視聴可能世帯数が36万世帯になった。
安全・安心につながる情報の発信をより充実させたい。

2)J:COMチャンネルについて。

①メディアセンターの組織について

- 関東メディアセンターとして、神奈川だけでなく、千葉や東京などにも情報発信できる体制ができた。これにより、相模原や大和の情報を関東全域に届けることが可能になり、反対に、広域の情報も相模原と大和に届けられる。

②編成と番組制作の基本

- 番組編成と制作の基本的姿勢を、「地域内の情報を地域内へ発信する」という考え方から、「地域の情報を地域の外へも発信する」という考え方に変えてきている。また、地域の人々が必要とする情報は必ずしも地元の情報だけではなく、日々の活動範囲である生活圈・沿線の情報も充実させなければならないとの考え方から、番組が扱う地域をやや広域でとらえ、生活圈情報を発信している。

3)番組についての意見交換。

(委員)

Q1 視聴可能エリアが広がることにより、地域性が薄まることについてはどう考えるか。

(事業者)

A1 これまで地域のこまかい話題を扱ってきた『Hometown相模原・大和』が終了したことで、『Hometown』がなくなって寂しい、というお声をいただいているのは事実だが、反面、新しい生活圈番組に対する期待の声は、前者を上回っている。この地域のこまかい話題は減っているが、その分、生活圈・沿線の情報を発信する番組が増えた。そうしたバリエーションの豊かさがチャンネルの有用性を高め、そうしたチャンネルを使って情報を発信する効果も高まる。

このほか、コミチャン、インターネット、インタラクTV、VODなど、情報発信機会を増やすことで、より多くの方に地域の情報を知っていただくことができると考える。

(委員)

Q2 舞台芸術や若手落語選手権など、自然環境のみならず芸術分野も相模原市のシティーセールスの大きな要素として位置づけているので、是非、コミチャンでも取材・放送してもらいたい。

(事業者)

A2 著名人のネットワークづくりやタウンミーティングのオンデマンド化、行政と市民と一緒に動かすイベントの盛り上げなど、さまざまな面で協力要請をいただいている。芸術分野もそのひとつ。どんなことが可能か検討し、できることから手をつける。

(委員)

Q3 詩吟教室、パソコン教室などJ:COMと一緒に開催しているイベントや、J:COMが提供しているサービスと関連性のあるカラオケ大会の開催告知については、是非コミチャンやチラシなどで積極的に協力して欲しい。

(事業者)

A3 積極的に協力する。

(委員)

Q4 大和駅周辺の魅力が薄れてきた。特色ある祭りや市民まつりとセットにした食のイベントなど、いろいろな仕掛けを考えている。また、医療と教育の先進的な取り組みも積極的にPRしていきたいので、広域に情報発信できるよう協力してほしい。

(事業者)

A4 沿線番組でも大和市内の駅を中心にした地区を積極的に取り上げて、視聴者からも好評を得ている。今後も大和市の情報発信に積極的に協力する。

3、閉会

以上